

第3章 川崎遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に

川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917(大正6)年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928(昭和3)年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以來2017年3月末現在46ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑、縄文時代と中世以降の貝塚等である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第6図 川崎遺跡の地形と調査区(1/4,000)

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
03試(2)	川崎字宅地添226-14	(2003.12.8・19)	381	個人住宅	遺構遺物なし	埋(26)
宅地添地区5次	川崎字宅地添222-3先	2004.2.16~18	88		古墳時代初頭竪穴住居跡1【調査実施】	15年教要
04試(1)	川崎字宮脇157-1の一部	(2004.6.14・15)	421	個人住宅	平安時代住居のカマドの一部	埋(27)
04試(2)	川崎2-5-1	(2004.11.1~4)	881	宅地造成	遺構遺物なし	埋(27)
20次	川崎字宮脇153-5	(2005.11.22~27) 2005.11.28~12.2	257	個人住宅	古墳時代住居跡1	市内1
21	川崎1-6-10	(2006.4.11) 2006.4.14~20	298	個人住宅	奈良時代住居跡1、溝	市内3
22	川崎171-1、174-10	(2007.4.16~23)	104	消防分団倉庫	炉穴4、地下式坑2、穴蔵1、土坑2	市内4
24	川崎字宅地添225-3	(2007.10.4)	319	共同住宅	遺構遺物なし	市内4
25	川崎字宅地添203-1の一部、 203-3の一部	(2008.4.14) 2008.4.15~17	1,033	個人住宅	奈良時代掘立柱建物跡1、溝、近代以降の地下室1	市内6
26	川崎字宅地添230-5	(2008.4.21) 2008.4.22~5.17	228	個人住宅	奈良平安時代住居跡4、土坑、ビット、近代以降の井戸1	市内6
27	川崎1-7-1	(2008.5.15~21)	350	分譲住宅	時期不明の溝1、土坑1	市内6
28	川崎字宅地添230-7	(2008.7.4~9) 2008.7.10~8.8	434	個人住宅	奈良平安時代住居跡2、土坑、ビット	市内6
29	川崎字宅地添230-1	(2008.7.9~11) 2008.7.14~8.22	203	個人住宅	奈良平安時代住居跡2、溝3	市内6
30	川崎字宅地添230-6	(2008.7.17) 2008.7.18~9.5	200	個人住宅	奈良平安時代住居跡4、井戸3、土坑、溝5	市内6
31	川崎字宮後161-5の一部、 161-6	(2009.10.28) 2009.10.28~11.27	304	個人住宅	縄文時代中期~後期住居跡2、奈良平安時代住居跡2、ビット12	市内8
32	川崎字宮脇140の一部	(2011.2.24・25) 2011.3.2~25	396	個人住宅	奈良平安時代住居跡3、土坑2、建物部分本調査	市内10
34	川崎2-5-4	(2011.7.25・26)	118	分譲住宅	遺構遺物なし	市内14
35	川崎2-6-4~7・9	(2011.9.27~11.24)	1,924	分譲住宅	縄文時代前期(黒浜期)住居跡1、奈良平安時代住居跡1他	市内14
36	川崎字宮前100-1	(2011.12.15~26) 2012.1.10~2012.1.17	1,096	公園整備	奈良平安時代住居跡6他	市内14
37	川崎宅地添232-1	(2012.9.3)	1,298	個人住宅	須恵器片、遺構なし	市内15
38	川崎字宮後165-3	(2013.2.25) 2013.2.26・27	176	個人住宅	縄文土跡2・中世以降ビット5	市内15
39	川崎宅地添227-1	2013.3.4・5	1,121	個人住宅	遺構なし、縄文土器、土師器、須恵器、焙烙	市内15
40	川崎1-1-7	(2013.10.11~17)	447	共同住宅	遺構なし、陶器	市内18
41	川崎字山向10-4の一部	(2014.9.8)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内20
42	川崎宅地添233-3	(2015.6.26~7.2)	200	川崎集会所	平安時代住居跡1、須恵器、土師器	未報告
43	川崎字宮後165-5・8・9	(2015.6.26)	175	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
44	川崎字宅地添202-1・8	(2015.11.24~12.10) 016.1.5~20	274	分譲住宅	縄文時代住居跡2、奈良平安時代住居跡1、貝塚1、地下式坑1、土坑3、 ビット7、溝1、縄文土器、石器、石製品、土師器、須恵器	市内19
45	川崎字山向8-4、7-7・8	(2017.2.24)	255	個人住宅	溝1(近世以降か)、焙烙、石器(尖頭器あり)	未報告
46	川崎字宮前101-5、103-8	(2017.3.13)	199	個人住宅	性格不明遺構1、土師器、須恵器	未報告

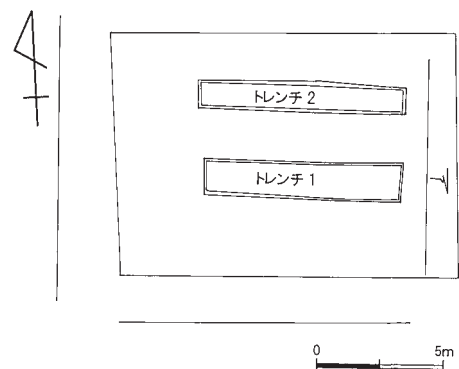
※埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

II 川崎遺跡第41地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2014年8月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014年9月8日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1~1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは10~20cmである。遺構、遺物はなし。旧石器時代の確認調査は行ってない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第7図 川崎遺跡第41地点調査区域図(1/300)



川崎遺跡第 41 地点調査風景



川崎遺跡第 41 地点トレンチ 1



ハケ遺跡第 15 地点調査風景



ハケ遺跡第 15 地点土坑



ハケ遺跡第 15 地点土坑



ハケ遺跡第 15 地点出土遺物



ハケ遺跡第 17 地点調査風景



ハケ遺跡第 17 地点トレンチ 2